

雲仙温泉歴史探訪コース：キリスト教と紛争

雲仙周辺には、多くの頭のない、あるいは明らかに頭が再び取り付けられた仏像がある。これは、雲仙の歴史のなかの、激しい宗教衝突の形見だ。1549年に、ポルトガル人の貿易業者が、火器や絹だけではなく、キリスト教宣教師とともに、鹿児島に到着した。数十年の間に何万人もの日本人—農民、侍、領主までも—が改宗した。宗教が広まった速さから、多くの人々が、日本はアジアで最初のキリスト教国になるだろうと信じたが、のちの数十年が示すように、そうはならなかった。

新しいキリスト教徒と、日本で確立された2つの宗教、神道と仏教の信徒との間で緊張が高まった。島原領主の有馬晴信（1567年 - 1612年）は1579年に改宗し、その後すぐに、領土内の神社仏閣を破壊するよう命令した。これは、雲仙の古い宗教を信仰する人々の感情を深く害した。西洋による植民地化の恐れと相まって、結果的に起こったキリスト教への反発は激しいものとなった。